

日本大学芸術学部



校友会報

平成25年5月発行
2013年春季号

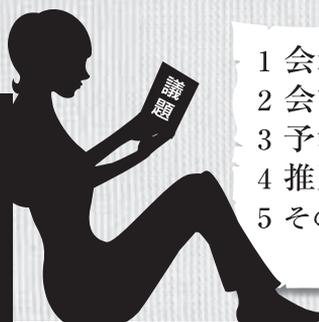
90

C O N T E N T S

平成 25 年度総会のご案内	2	台湾江古田会総会	11
第 7 回日藝賞決定	3	長野江古田会総会	11
皆さん今日は!	5	学部へ防災グッズの寄付	12
新年顔合せ幹事会	9	学部ニュース	13
宮崎江古田会総会	10	学科ニュース	13 ~ 18
岩手江古田会総会	10	編集後記	19

I N F O R M A T

I O N



- 1 会務報告
- 2 会計報告
- 3 予算審議
- 4 推薦校友
- 5 その他

総会終了後、ただちに懇親会に移ります



会費

喜寿を越えられた卒業生……ご招待
平成16年度以降の卒業生……3000円
それ以外の卒業生……5000円

久しぶりに
参加して
みようかな♪



平成25年度

総会のご案内

2013

6/29 土

総会のご案内

PM 5:00 START

場所：日本大学芸術学部内

《03-3554-5363》※当日、正門にてご案内致します。

※同封しました総会の出欠のはがきをお送りください。

第7回日藝賞決定

毎年活躍した校友二名を表彰し賞金とトロフィーを授与する「日藝賞」の第7回受賞者が決定し、4月8日の入学歓迎式において授賞式が行われました。



よしもと ばなな氏



森田 公一氏



日大の歌「桜の木の下で」作曲、音楽学科合唱団の指揮をふる森田公一氏

第7回「日藝賞」受賞者について



photo by : Fumiya Sawa

よしもと ばなな

【Banana Yoshimoto】

1964年、東京生まれ
 日本大学芸術学部文藝学科卒業
 87年小説「キッチン」で第6回海燕新人文学賞を受賞しデビュー
 88年「キッチン」「うたかた/サンクチュアリ」で第39回芸術選奨文部大臣新人賞
 89年「TUGUMI」で第2回山本周五郎賞
 95年「アムリタ」で第5回紫式部文学賞
 2000年「不倫と南米」で第10回Bunkamuraドゥマゴ文学賞（安野光雅・選）を受賞

・ 著作は30か国以上で翻訳出版されており、イタリアで、93年スカンノ賞、96年フェンディッシメ文学賞<Under35>、99年マスケラダルジェント賞、2011年カプリ賞を受賞している。
 近著に「どんぐり姉妹」「ジュージュ」「スウィート・ヒアアフター」「人生の旅をゆく2」「さきちゃんたちの夜」などがある。

代表作

〈小説〉
 キッチン 1988年
 ムーンライト・シャドウ 1988年
 うたかた/サンクチュアリ 1988年
 TUGUMI 1989年
 アムリタ 1994年
 不倫と南米 2000年
 どんぐり姉妹 2010年
 ジュージュ 2011年
 スウィート・ヒアアフター 2011年
 『さきちゃんたちの夜』

受賞歴

第6回 海燕新人文学賞（1987年「キッチン」）
 第16回 泉鏡花文学賞（1988年「キッチン」）
 第39回 芸術選奨文部大臣新人賞（1988年「キッチン」/「うたかた/サンクチュアリ」）
 第2回 山本周五郎賞（1989年「TUGUMI」）
 第5回 紫式部文学賞（1995年「アムリタ」）
 第10回 Bunkamuraドゥマゴ文学賞（2000年「不倫と南米」）
 その他にイタリア共和国にてスカンノ賞（1993年）
 フェンディッシメ文学賞〈Under35〉（1996年）
 マスケラダルジェント賞（1999年）
 カプリ賞（2011年）



森田 公一

【Koichi Morita】

昭和15年2月25日 北海道留萌市生まれ
 昭和33年3月 留萌高校卒業
 昭和34年4月 日本大学芸術学部 音楽学部入学

- ・ 在学中に作曲活動、ピアノ弾き語り等を開始。作曲はCM Songからスタートし6,000曲を超える。サントリービールのCM SongでCM界のグランプリ、ACC賞を受賞。
 現在も日本香道の青雲や明治ブルガリアヨーグルト等、多数ON AIR中。
- ・ 昭和45年自ら率いるトップギャランを結成。
 作曲活動はCMSongからレコード界へ。
 天地真理、アグネス・チャン、桜田淳子、リリース、石野真子などアイドル多数の作曲。ベテラン歌手では和田アキ子、河島英五などの作曲を担当する。

代表作

あやとり 1976年 美空ひばり
 母を想えば 1977年 三波春夫
 珈琲（モカ）のかほり 1983年 高峰美枝子
 愛する人には歌わせないで 1968年 森山良子
 ひとりじゃないの 1972年 天地真理
 春の訪れ 1973年 小柳ルミ子
 ひなげしの花 1972年 アグネス・チャン
 あの鐘を鳴らすのはあなた 1972年 和田アキ子
 記念樹 1973年 森昌子
 炎の女 1973年 由美かおる
 初めての出来事 1974年 桜田淳子
 ハートのエースが出てこない 1975年 キャンディーズ
 青春時代 1976年 森田公一とトップギャラン
 春ラ!ラ! 1980年 石野真子
 恋はサマー・フィーリング 1983年 石川秀美
 時代おくれ 1986年 河島英五
 他ジャンルのものを合計すると10,000曲以上の作品を創作

受賞歴

第14回 レコード大賞 最優秀歌唱賞（1972年「あの鐘を鳴らすのはあなた」）
 第17回 レコード大賞 作曲賞（1975年「下宿屋」）

皆さん今日は!

●桑田 恵里 (写真学科卒)

小さい頃は、好きなことだけを追いかけていれば良かった。しかし、成長し大人へと近づいた私たちは、間違える事を怖がり慎重になる。ものを作ることが好きだ、ただその気持ちだけを大事に抱えて入学した芸術学部。この場所で過ごした毎日は、私に子どもの頃のなにかにひたむきに向き合う無垢な気持ちを思い出させてくれた。勉強が苦手で机に向かうと絵を描いてばかり、という子どもだった私は、芸術学部へ入学するまで学ぶことに面白さを感じる体験が少なかった。しかし、大学では吸収する知識のひとつひとつが作品制作の糧になるとともに、新たな着想を得る為に欠かすことのできない要素なのだ気がつくことができた。それからは学び知識を得ることがものを作ることと同じように楽しく、様々な出来事に育てられて、大学生活の四年間で私は作り手としてのみならず、ひとりの人間としても少し成長できたのではないかと感じている。今はただ、みんなと一緒に日藝で学べたことが嬉しい。



最後に、写真学科高橋則英先生をはじめ暖かく丁寧なご指導を頂いた先生方、いつも良きお手本を示してくれた先輩方、持ちつ持たれつ私を支えてくれた優しい友人たち、そしていつも静かに見守ってくれた家族に宛てて、大きな感謝の気持ちを込めて。四年間、どうもありがとうございました。私は大学院へ進学し、学部で学んだことを大事にしながら作

本年より皆様の仲間入りをします。どうぞよろしく。

品制作と研究を続けます。どうぞこれからもよろしくお祈りします。

●野村 和宏 (写真学科卒)

緊張感を持って生活することでこの4年間たくさんのことを得ることができました。私は大学2年生の時から卒業まで卒業生の先輩カメラマンのアシスタントとして働きました。アシスタントをしている時は常に緊張感もち現状を俯瞰して、先読みをし、次のアクションのための準備をする。この力は社会において当たり前である先を読む力が大学生の時にできるようになったことは、いまの自分の大きな要素であることは間違いありません。自分の先読み通りに流れていくことはとても快感です。ニチゲイに通っていたからこそ経験できたことだと思っています。



また1年生からカメラマンとして仕事をしています。1人で仕事をすることも自分にこの社会に入るための準備期間である大学時代に社会の一員として仕事できたことは、今後にも多いに役立つと思っています。現場で出会う先輩はとても頼もしく、幾度となく助けられました。そして仕事が終われば、学校の話や世帯関係なく楽しくしました。これからカメラマンとしての生活が始まります。緊張感を常に持ちつつも、攻め続けます。時に間違えることもあると思います。そのときにはご指導よろしくお祈りします。

●関谷 壮史 (映画学科卒)

映画学科に入学した頃のことを思い出してみると、私は理系出身ということもあり、効率や能率を重視することが多かったような気がします。一年生の時はそんな考え方の違いから、よく仲間とは言い争いをしていました。そういう戸惑いの中、言い争いをしながら個性が強く理屈っぽくない仲間をととても魅力的に感じていたことも事実です。



学年が進んでいき仲間と共に作品を作っていくうちに、ある意味個性と呼べるものかも知れませんが、やりたい事や絶対に曲げたくない事が自分にも生まれてきました。しかし、やりたい事や絶対に曲げたくないことを主張しながら突き進んで行くと、自分の前にある壁がどんどん大きくなり、気がつくとは私は大学から逃げ出していました。

そんな時私を救ってくれたのは多くの仲間でした。それまで好き勝手に自分のやりたい事をつらぬき迷惑をかけたかも知れないのに…。落ち込んでいる私に励ましの声をかけてくれて、また一緒に作品を作ることができました。すごく楽しかった。今でも良い思い出です。同じ時に入学した仲間より少し学校を旅立つのが遅れてしまいましたが、今年度の卒業制作を、すでに卒業した仲間と今の四年生の仲間とともに映画を作る機会に恵まれ、とても幸せでした。この場を借りてたくさんの仲間にお礼をします。

本当にありがとうございます。皆さん、これからもよろしく御祈りします。

●濱本 七緒 (映画学科卒)

四年前、建て替え途中の江古田校舎で書いた入試小論文のテーマは「自由とは何か」そういった感じの題目だったと思います。



少なくとも私はそう捉えて、亀が空を飛ぶことについて書きました。友人は集落ごと移動しながら生活する遊牧民を例にとりあげたと話してくれました。要するに「制限のある自由」をどう捉えるかということ、日芸に入る前段階として考え直したわけです。出題意図が実際どうであったかはさだかではないのですけれど…。

この4年間、まさに「制限のある自由」の中で学んできました。制限のある環境で如何に自由をみつけ活用するか。そのことばかりを考えながら日々を過ごし、チャンスがあればとにかくやってみるということの大切さを経験しました。限られた自由であっても、この大学が与えてくれる環境はとても恵まれていて、学生のやる気に呼応しています。私はそれに気づくのが少し遅かったことが後悔として残ります。でもそれに気づいたこと自体が大きな収穫だったとも思います。

ここから出ても広がるのは限られた世界。その中で何かを見つけたいと思っています。

皆さん、よろしく御願います。

●田邊 由貴 (美術学科卒)

西棟3階、奥の奥、右に曲がると扉がある。版画室。私の母校はこの部屋だ。

「版画ってあの、木彫ったりするやつでしょ。」何度言われたことか。簡単に言うと彫って刷るだけ、でもその「彫る」「刷る」にたくさんの手間

と時間がかかっている。だから版画室の電気は朝から晩までフル活動。生徒も講師陣もフル活動。それぞれがその時期の発表に向けて正に「全力」で制作をしている。

朝から晩まで工房に引き込み、制作し、帰りにやっと「あ、今日そんな服着てたの。」なんてことはしょっちゅう。帰りの電車では手が真っ黒で吊革掴むのがちょっと恥ずかしかったり。

でもその2年間で、私は多分すごく楽しかった。

こんなにも自分の作品について考えるとは思わなかったし、紙やインクの素材まで考えるとは思わなかったし、まさか自分が講評会で泣くとは思わなかった。

すごく、すごく楽しく、充実した2年間。絶対忘れない、忘れられない。そして最後に、指導して頂いた先生方、共に制作生活を過ごした友人、故郷新潟から応援し、支えてくれた両親、この大学で出会った全ての人に心から感謝。ありがとうございます。これからも、もっと楽しみます。

●小山 百合恵 (音楽学科卒)

「普通じゃないが普通です」個性的な人が集まる日芸にまさにピッタリなフレーズ。一人一人が自分の芸術で思いを表現し、人の心を動かす。そんな素敵な芸術家達に私は日芸でたくさん出会えました。

私は高校から声楽を始め、日芸では音楽学科声楽コースとして4年間を過ごしました。大好きな音楽を充実して学べることに加え、他学科の授業も聴講したり受講できる点から演劇や映画にも興味があった私にとって、最高の場所でした。小さい



頃から将来は舞台に立つお仕事がしたいと思っていました。だから、学科の定期演奏会でソロで歌ったり、オペラ公演に出演したり、サークルでダンスをしたり、演劇学科の友達主催の舞台に参加したり…日芸での4年間は積極的に色々な舞台に挑戦しました。この経験が卒業後の進路の劇団四季へと導いてくれたのだと思います。舞台に挑戦するたび、何度も泣き、挫けて、自分にはできないと自信を失っても、私には支えてくれる家族、先生方、そして日芸で出会えた友達がいてくれました。だから、これから先も夢にむかって突き進んでいきます。日芸で出会えたすべての人の感謝をして。

●深澤 美香 (音楽学科卒)

中学一年で始めたフルートで、まさか大学に進学し、職に就くとは私も両親も思ってもみませんでした。私は、この春から音楽教室のフルートの先生になります。

少人数の日芸では、学年を越え専攻楽器を越えコースを越えて、沢山の仲間が出来ました。私が特に力を入れていた室内楽の授業では、仲間達と意見を出し合い時にはぶつかりながらも、納得いくまで何回でも練習を重ね、良い音楽を求め続けました。仲間と共に音楽をすることで培われた自分の音楽に対する姿勢は、ソロにも活かされていきました。

忙しい毎日の中で、楽しく生き生きと音楽を勉強出来ている事に気が付き、4年生になった頃から日芸生である自分に誇りを持てるようになりました。素晴らしい先生や職員の皆様に見守られ、ぶつかり合える仲間と出会えたのは日芸だったからなの



です。日芸が少人数制であることは、私にとって深い人間関係を築く手助けとなりました。

日芸で身に付けた音楽に対する姿勢、自主性は、社会でも私を助けてくれるに違いありません。

●額賀 滯（文芸学科卒）

日芸からの合格通知を受け取ったのは高校三年の十月。嬉しいという気持ちと、果たして自分はこの道に進んでいいのだろうかという不安、その両方が私の中にありました。それでも日芸を選んだのは、私はもう死ぬまで書くことをやめられないだろうし、書くことを誰にも咎められたくない、という気持ちが強かったからです。作家になりたいと夢を語ったとき、ここなら誰もそれを馬鹿にしないだろう。高校生の私にそう思わせてくれたのが、他でもない日芸でした。

私の大学生活は何度振り返っても嫉妬、嫉妬、嫉妬の四年間でした。同世代の方が賞を獲る度、作家デビューする度、面白い作品に出会う度、自分が凡人であると思い知らされ、妬ましい羨ましいという気持ちを繰り返し噛み締めて来ました。同時に、それが私の活力になっていたと思います。日芸での四年間は、人生で一番創作に没頭できた期間でありました。得たものはたくさんあります。失ったものもたくさんあります。いいことも悪いことも全てひっくるめて、素敵な大学生活でした。生まれて初めて「卒業したくない」と思える学校生活を送れたことを、幸せに思います。



●山内 貴寿（文芸学科卒）

いざ卒業を迎えることとなると、もう終わってしまったのか、とその時間の早さに残念に思う気持ちもあれば、四年間を無事に終えられたことによる安堵もあるし、過ごしてきた膨大な時間を振り返りたくなる衝動もこみ上げてくる。上々の大学生活だった。何かしらで賞を取れたし、自分がデザインを手掛けたiPhoneアプリなんてのも作れた。トラウマ級の手痛い失敗もしたし、エコーダもやれた。悪くない。本当に上々の四年間だった。心の底からそう思う。

だが、「自分は結局何がしたいのか」というのは大学生活を終えた今でもとんと分からない。

私はただ、この四年間だけには納得がほしかった。これから先に何があるとも日藝での日々により残しはあってほしくなかった。

最後の最後まで自分を日藝たらしめるものを与えてくれるなら、そこに自分のやれること全てを注ぎたかった。

気持ちばかりが先走って、伝えたことを上手く伝えきれないのが偲びない。

私は日藝が好きだ。この大学生活が大好きだった。でなければ、成し遂げられないことばかりだった。

やり残したことは際限なく頭を巡る。話したいことも切りがない。しかし、卒業だ。踏み切りはつげなくてはならない。

共に学んだ仲間たち、世話をかけてくれた先生方、そして、何よりも育ててくれた両親に感謝を。本当にありがとうございました。

私は日藝を出ていきます。



●青山 桃子（演劇学科卒）

変わってるよね。と言われるのは、自分の中での人に言われて一番嬉しい褒め言葉だった。しかしながら、大学に入った途端、私はごく普通の人になった。私より数百倍変わっている人たちがたくさんいることを知ったから。変わっているって何が？と聞かれると自分でもよく分からないのだが、それが日芸だった。

時間を忘れ、のめり込むほど好きな何かをみんな持っていた。その熱さに憧れた私は、みんなから取り残されないよう、自分だからできることを必死に探す四年間。そのお陰で人と話すことが大好きになった。人が喜ぶ顔を見るのが好きになった。自分から学ぼうとしないと前に進むことはできない。真似っ子じゃなく、自分から発信する。そんな自主性を求められる環境だったからこそ、怖いもの知らずになった私は、果敢にチャレンジができた。

今までの自分の考えや行動、人との出逢いが繋がり、春から私は演劇ではないが、照明で人を楽しませるチャンスを手に入れることができた。これからここでの経験をどれだけ生かせるか。みんなに抜かされないよう、走り続けたい。頑張ります！

●松倉 彩夏（演劇学科卒）

もともとミュージカルについて学びたかった私にとって、演劇学科のカリキュラムは満足できるものではありませんでした。それに早く舞台に立ちたいと考



える人にとって、大学という選択は遠回りです。しかし、4年という守られた猶予期間の中で得たものは、これからの人生において、私の心の支えとなるものばかりです。

一つは、演技について学ぶ過程で、自分自身や、他者との関係においての自分というものを、しっかり考えることができたということ。そしてもう一つ、仲間という大切な宝物。時には反面教師となることもありましたが、そんなことも含め、良い刺激をたくさんくれました。そんな仲間がいたからこそ、4年という歳月を過ごせたのだと思います。彼らは、今までも、これからも、私の心の支えです。本当に感謝しています。

4年の間、様々な選択肢が私たちに与えられ、結果、私は演劇を離れることを決断しました。しかし、最後の記念にと思い受けたオーディションに合格し、もう少し演劇を続けることになりました。何度も退学を考えましたが、卒業してよかったと思います。これからも日芸で得たことを忘れず、成長していきます。

●根本 美輝 (放送学科卒)

「類は友を呼ぶ」ではないが、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学と進学していくにつれて、気が合う友人が増えていくと思う。



日芸は私にとって、あまりにも気の合う友人たちに出会わせてくれた衝撃の場であった。

しかし、気が合うといっても、物事を捉える視点や表現する方法は様々で、自分が思いつかないようなことをサラッと言い、やってのける姿に、私は劣等感を感じずにはいられなかった。

そして、そんな自分には何が足りないのだろうと考え、辿りついた答えが、自発的に何でもやってみることだった。

思えば、周りの友人らは何事にも興味津々で、いい意味で自分の目指すものに貪欲だった。小学生の頃からラジオが大好きで、将来はラジオの仕事がしたい、と言うばかりで何も行動に起こしていなかった自分がいることに気付いた。

日芸で得たものは「自活力」だったのではないか。

私は4月から夢だったラジオ局で営業として働く。傍にいてくれた友人ら、先輩方、先生方が毎日刺激を受けさせてくれ、サポートしてくれたことに感謝しながら、次の目標に向け、貪欲に行きたいと思う。

●池上 響 (デザイン学科卒)

私は小学校から高校までをオーストラリアで過ごし、英語が話せず不安な時期も街で見かける多くの日本車や日本の電化製品の見て日本人であることを再確認し、日本人であることを誇りに感じていました。この時から、日本の家電メーカーに入って海外でも通用する家電デザイナーになりたいという夢を持ち、日芸デザイン学科に入学しました。私はデザイン科等の専門的な高校ではなく普通科の高校に通っていたため、入学当時自分の実力には全く自信がなく、クラスで最下位からのスタートを覚悟していました。それでも日芸に来てデザイナーになるという同じ目標を持った人達と出会い、デザイナーとして活躍されている教授や先輩方と話す事で、全ての出会いが自分にとって刺激となり、あ



という間の4年間でした。

卒業制作や就職活動など辛いと感じることも多々ありましたが、友人や助手さん、教授のサポートもあり、4月からは念願叶ってメーカーでプロダクトデザイナーとして働くことになりました。日芸での全ての出会い、経験に感謝します。4年間本当にありがとうございました。

●島崎 みのり (デザイン学科卒)

わたしの短所は「断れない」所です。一日にたくさんの予定をいれてしまったり、本来休みのはずの日になぜかバイトをして



いたり…なんてことしょっちゅうです。友だちには「予定いれすぎじゃない？」父には「やだって言って結局やるんだもんな。」と散々言われました。おっしやる通りです。自分でも、ほんとうにやりたいことだけ選択すべきかなとも思います。

でも断れなかったからこそ、観れたもの、知れたもの、行けた所、できたこと、成功したことがたくさんあるのです。今までとは違うタイプの人たちに囲まれて、言い方は悪いですが、振り回された結果、わたしが想像していた大学生活よりも、ものすごく楽しくて、充実していて、幸せな4年間になりました。そしてきっと、こうやって一生過ごしていくのでしょうか。振り回してくれた大学のみなさん、振り回されているのを笑って見守ってくれた家族のみなさん、ありがとうございました。ほんとうに心から感謝しています。そして、これからも末永くよろしくお願ひ致します、ね。



新年顔合せ幹事会

1月12日(土)
於：池袋メトロポリタンホテル



平成 25 年 1 月 12 日 (土) 池袋メトロポリタンにて新年顔合わせ幹事会が開催された。
4 時より 4 階松風において江古田会支部総会を行い台湾・韓国江古田会をはじめ 13 支部が出席され約 2 時間にわたり各支部の現状の報告など忌憚のない意見交換をした。
6 時よりは 3 階の富士において新年会となった。学部長をはじめ各支部会長・常任幹事・幹事約 50 名の参加のもと、竹形貴之氏のギター伴奏をはじめ、例年のビンゴゲームで盛り上がり皆さん大変楽しまれ会を終了した。



宮崎江古田会総会

6月2日(土) 於: 杉の子

平成24年度第13回宮崎江古田会総会が6月2日(土)宮崎市の「杉の子」で開催されました。総会は午後6時から式次第ののっとり、長嶺副会長の開催の挨拶で始まった。後藤会長から宮崎江古田会の機関誌「どんげしよっと」の創刊号が発刊された事、九州アート展の出品の呼び掛け、「どんげしよっと」の原稿募集など、協力依頼の挨拶があった。続いて23年度活動及び会計報告、24年度の事業計画及び予算案の説明があり、参加者全員の拍手を持って承認された。総会終了後来賓や県外校友会の方々と一緒に全員で記念撮影を行い懇親会に移った、米倉幹事長の司会進行で物故者(大建雄三氏、金丸義昭氏、真野顕子女子)哀悼の誠をあげ、黙祷を行った。そして日本大学校歌を声高らかに斉唱した。後藤会長から挨拶が有り、今回

は創立以来の参加者が集まって頂き大変うれしく思っています。これを機会に会が盛り上がり、さらに「どんげしよっと」の機関誌が盛り上がるようにと呼び掛けた。次に来賓挨拶で野田学部長より「通年化教育」「芸術教養課程」を考えている旨、説明が有った。続いて綾部校友会会長より「宮崎は地道にこつこつとやっていて、まとまりがある」と嬉しいコメントを頂いた。そして、はるばる福岡江古田会から初めて参加頂いた粟村会長、熊本江古田会から奥村会長、地元宮崎日大大学園より宮崎日大高等学校校長 後藤信一氏から激励の言葉を頂いた。乾杯の音頭を今年古稀を迎えた牧元悟氏(放送)が声高らかに乾杯を発声し、懇親会に入った。会も盛り上がった頃に今回からイベントを取り入れ「ビンゴゲーム」を実施することにした。箱、

数字を書いた紙、全て手作りである。景品は役員から協力を頂き集めた。宮崎江古田会恒例「3分間スピーチ」が始まり18名全員の近況報告が終わり、最後に樺山氏(文芸)の一本締めで和やかに総会を終えた。お疲れさまでした。

宮崎江古田会 会長
後藤欣久(美術・44年度卒)



岩手江古田会総会

10月13日(土) 於: じゃあらんじゃあらん

平成24年10月13日(土)午後5時20分より盛岡市駅前のじゃあらんじゃあらん5階にて、目出度く末広がり第8回岩手江古田会が開催されました。綾部東洋子校友会会長、原直久芸術学部次長先生、日大校友会会長武田太一岩手副支部長と3名の御来賓、宮城江古田会塚崎隆夫会長、岩手に縁の深い青木研一副会長、星久美子広報担当幹事をゲストにお迎えし、まずは國分一彦(映65)会長の挨拶で総会が始まりました。綾部校友会会長から祝辞を頂戴して、即議事に入り、前年度事業報告会計、本年度事業計画及び予算案を瞬時に可

決し、記念写真撮影となりました。宮城の塚崎会長が本業の腕を発揮したかと思えば、日本写真学会会長原先生が「私のカメラでも」とおもむろに店のスタッフに愛機を。頼まれた彼女は原先生のカメラに映るモニター映像に「わ～凄く綺麗です」と驚いておりました。國分会長の御発声で乾杯。武田先輩・原先生からの祝辞と同時進行で料理のお皿がテーブルに並び宴会モード。自己紹介を兼ね全員で近況報告。今回のアトラクションは上田輝仁さん(文71)秘蔵のお宝パンフレット御披露目。いつぞやはビートルズ日本公演のチ

ケットでしたが、今回はボブディラン、マイケルジャクソン、三大テナー、ミュージカルまでを含む初来日アーティストの販売パンフレット多数。参加者全員お宝に目を丸くしておりました。今回から案内状関連の事務一切を引受けて下さった鈴木玲子さん



(演67)からは盛岡ならではの御茶餅と餡団子の差入れ。彼女が綾部会長のトルコ公演に参加したとの報告あり、台湾芸術校友会への参加話もありで、当会もなかなか国際派校友会だという事でも話に花が咲きました。宴たけなわの頃、下の階から突然素晴らしい混声4部合唱が鳴り響きま

した。某合唱団の結婚式二次会だったようです。こちらも芸術学部の威信を掛け、お返しに星さんの華麗なソプラノによる震災復興支援ソング「花は咲く」。校友達との楽しい時を過ごしながらも震災からの1年7カ月を思い出し、被災により参加できない校友達に「またいつか笑顔で会

いましょう」と思いを寄せた岩手江古田会となりました。帰りには原先生から頂戴した女性会員スペシャルのチョコレートケーキを手に皆笑顔で来年の再会を約束して家路につきました。

台湾江古田会総会

11月24日(土) 於：福容飯店温泉會館

日本大学芸術学部台湾江古田校友会総会が2012年11月24日(土)午後13時より台北の福容飯店温泉會館において開催されました。

日本からは来賓として野田慶人学部長と原直久校友会副会長が総会に出席され、そのほか、台湾日本大学校友会の楊文輝氏、林廷隆氏、佐澤英子氏もご出席いただき、今回の参加者は合わせて28名となりました。最初に台湾江古田会林会長の挨拶、野田慶人学部長と原直久校友会副会長の紹介、ご挨拶に続いて、議案を

審議し、その後会員が一人ずつ近況報告をしました。

美術家の林舜龍氏は瀬戸内芸術祭に出展し、展示の様子や最近の創作活動について、また陳敏明氏は台中市中港市政大樓惠中樓一樓中庭、港區藝術中心、大墩文化中心にて「高空獵影－瞰見大臺中」の写真展開催情報や展示内容の報告をしていただきました。

その他すべての会員が台湾での近況を交換し、楽しい一日を過ごしました。すべての卒業生のますますの

活躍と健闘を祈り、散会しました。

台湾江古田会
黄 国鈞(大学院・平成15年度卒)



長野江古田会総会

11月25日(日) 於：アマンダンスカイ

第7回長野江古田会平成24年度の総会は11月25日(日)午後1時から来賓として芸術学部から学務・海外交流担当の木村政司教授と綾部東洋子校友会々長のご出席を頂き前年同様、国宝善光寺裏山、善光寺平一望のアマンダンスカイで開催された。

総会は議案は報告の通り承認され、特に会長より平成25年度は役員改選年であり、この際人事一新をはかり、若き人材育成のために、現役世代の若き男・女会員を役員に抜擢、長野

江古田会の今後の発展を期待した人事としたと理解を乞う説明がなされ承認されました。

総会後は食事会に切替え、シェフ肝煎の地元野菜を使ったフランス料理を堪能しながら木村先生から父方が佐久の出身で幼い頃、佐久で遊び遊んだ事、趣味の「チョウ」を追いかけ長野県内を今でも走りまわっている。定年になったら長野に住みたい、長野江古田会に入れてほしいなど話しがはずみ三三五五おひらきと

なった。

支部長兼会長
酒井喜仁(演劇・32年度卒)



学部へ防災グッズの寄付

校友会では、学部へ防災グッズとして5点寄付いたしました。

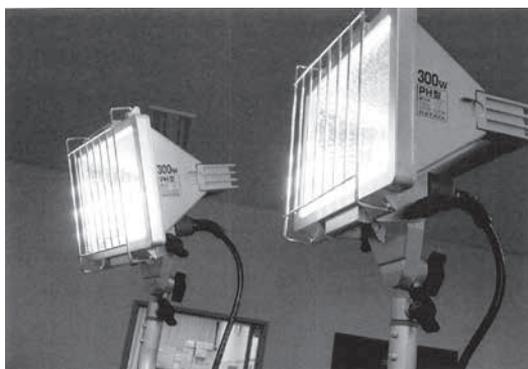
- ①. ポータブル電源 2台
- ②. 発電機 2台
- ③. 投光機 2台
- ④. コードリール 2台
- ⑤. ヘルメット 62個



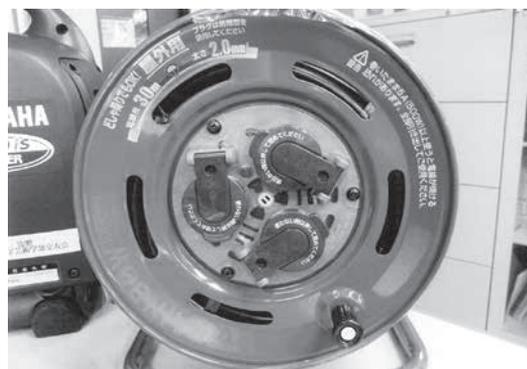
①



②



③



④

学部ニュース

去る3月25日に平成24年度卒業式及び学位記授与式が挙行されました。日本大学総長賞・優等賞、芸術学部長賞、芸術学部奨励賞など卒業生、大学院修了生に対する各賞の発表及び表彰がありましたので、学外のコンテストなどで活躍された受賞者と併せてお知らせいたします。

- 日本大学総長賞（学業部門）
- 写真学科 小池 潤
- 日本大学優等賞（学業部門）
- 写真学科 松永育子 桃井奈名子
朝内拓雄 小池 潤
- 映画学科 首藤法子 佐野綾香
牧田佳織 内田沙季
- 美術学科 大田黒舜 平野 愛
山本裕子 内田理絵
- 音楽学科 谷亜矢子 山田あずさ
糸井川夏穂 原田彰子
- 文芸学科 細井麻奈美 本木あすみ
杉平麻梨絵 奥野拓也
- 演劇学科 伴内絵里子 小沼 和

- 放送学科 平田美穂子 飯野愛希子
張 守妍 金井勇樹
大野 敦 安平衣里
- デザイン学科 浅見有希 鈴木麻紗子
倉地賀也 杉野亜美
- 日本大学優秀賞（学術・文化部門）
- 文芸学科 額賀 滂 中野沙羅
- 日本大学奨励賞（学術・文化部門）
- 杉田めぐみ（デザイン2年）
- 千葉佐記子（映像芸術1年）
- 芸術学部長賞（学業部門）
- 写真学科 桑田恵里 小西由紀
山本泰輔 野村和宏
中村高樹
- 映画学科 世継夏南 佐近圭太郎
平野 礼 高橋泰治
- 美術学科 岡本千明 井口結菜
當麻彩子 浅香百百子
石井悠子 田邊由貴
- 音楽学科 大津康平 小山百合恵
日高麻子 石井惠美
木下 晶

- 文芸学科 細井麻奈美 額賀 滂
堀井球子 嶋崎 彰
伊藤果南
- 演劇学科 大橋美帆 齋藤優衣
佐藤萌香 山田拓実
余川紘野
- 放送学科 鈴木つかさ 伊藤 剣
川野 悌 山本明広
三宅 愛
- デザイン学科 渡邊真弓 片桐祥太
山本将史 末永真淑
市川雅輝
- その他の部門
- 放送学科 篠田 築
- 芸術学部奨励賞
- 写真学科 小田佳奈
- 映画学科 高木 愛
- 美術学科 山崎雄士
- 音楽学科 高野峻典
- 文芸学科 巖 暲美
- 演劇学科 陣矢恵里花
- 放送学科 宮手美菜子
- デザイン学科 杉野亜美

学科ニュース

写真ブロック



●平成24年度芸術祭展示作品の中から写真学科主任賞が「ともだち造り」加藤雄也（4年）に、次いで写真学科奨励賞が「Flash」小暮和音（4年）と「Retratos」高洲夢平（3年）に授与されました。また写真学科卒業生の会・新写真派協会から「命の音」長谷川陸美（3年）に新写真派協会賞が授与されました。

●平成24年11月6日に藤本ツト

ム氏（平2年度卒）により「フォトグラファーの為の動画撮影」、続いて11月14日に橋本雅司氏（昭55年度卒）により「写真集制作の現場」、平成25年1月18日に村越としや氏により同タイトル「写真集制作の現場」の特別講座が江古田校舎で行われました。また11月26日には鹿野貴司氏により「写真家の仕事」、そして12月4日には客員教授大石芳野氏（昭41年度卒）の特別講座「戦争の傷」が所沢校舎で行われました。

●卒業制作の中から金丸重嶺賞が加藤雄也「カタヨリの箱」、小柴託夢「人間への警鐘」、吉崎千佐子「角を曲がったら」に決まりました。

その他の賞については「学部ニュース」のページをご覧ください。

●2013卒展が平成25年2月15日～3月2日に日本大学芸術学部江古田校舎芸術資料館で行われました。展示作品の中から「country of PUJA」川野太蘭、「NOQUR」森田翔、「SOURCE」小野真太郎に写真学科奨励賞が、また「星ふる夜の背くらべ」野村和宏に新写真派協会賞が授与されました。また本年度は、同写真展が3月9日～3月11日まで日本大学芸術学部写真学科2013卒展としてニコニス新宿で開催されました。

●日本大学芸術学部写真学科卒業

制作選抜展が平成25年3月7日～3月13日に四谷のポートレートギャラリーで行われました。この展覧会は昨年より開始され、卒業制作の実物を校外で唯一展示するものです。展示希望者を公募し、審査をへて選抜し開催となりました。出品者は桑田恵里「共生／侵

蝕」、加藤雄也「カタヨリの箱」、小西由紀「Revelation Of Life」、吉崎千佐子「角を曲がったら」、岡田純哉「倭調」、野村和宏「星ふる大地」、趙スラ「Revert」、森岡舞子「Cosmic space」の8名です。

●平成24年度をもって梅津禎三先生（昭36年度卒）、藤井耿先生（昭38年度卒）が写真学科を定年されました。また平間至先生（昭61年度卒）もご都合により退職され、新しく藤本ツトム先生（平2年度卒、「画像処理Ⅲ」担当）、渡辺幹夫先生（「ゼミナール」担当）をお迎えしました。

映画ブロック



●平成24年度映画学科各賞が、次の卒業生の論文・計画・制作に授与されました。

☆第40回渡辺俊平記念賞

(脚本) 福田果歩

☆第15回菅見有弘賞

(理評) 清水馨

☆第6回大竹徹賞

(脚本) 佐賀奨平

☆第7回八木信忠賞

(録音) 木村麻友子

☆第37回映画学科奨励賞

(理評) 青山リサ、(映像) 牧田佳織、

(脚本) 天沼佳奈、(監督) 長瀬万里、

(撮影) 星潤哉、(録音) 馬場愛、(演技) 山田麻沙子

☆第22回映画学科選奨

(理評) 加治野菜、(映像) 渋谷美久、

(脚本) 津留徹史、(監督) 百田いづみ、

(撮影) 関谷壮史、(録音) 村上拓也、

(演技) 村上玲

☆第20回映画学科特別賞（フジフィルム・放映産業提供）

(理評) 伊津野朝子、(映像) 植田倫代、

(脚本) 大友奈美、(監督) 松永太郎邦継、

(撮影) 原田夏美、(録音) 押田崇、

(演技) 初村真樹

☆第10回東芝ライテック・アートライティング賞

(撮影) 鎌田孝之

☆第11回映画学科コダック賞

(監督) 角屋拓海、(撮影) 斎藤弥里、

杉江亮輔、(録音) 長谷川真鷹、大関

奈緒、(演技) 小野寺志織、加藤エン

●映画学科で教鞭をとっていただいた、相澤秀一講師（映画特講）、新井靖久講師（センシトメトリー）、昼間行雄講師（映像）、藤本耕治講師（音楽）、藤原花（映画特講）、横川真顕講師（映画分析）が退職されました。ごくろうさまでした。

●平成25年度より次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。

榎本憲男講師（映画ビジネス）、内山一樹講師（映画ビジネス）、小澤秀高講師（映画特講）、大竹久美子講師（映画ビジネスⅡ）、草原真知子講師（コミュニケーション）、齋藤精二講師（平成9年度映画学科卒、映画技術）、鈴木美康講師（センシトメトリー）、田中廣太郎講師（平成17年度映画学科卒、映像メディア演習）、谷篤講師（音楽）、堀越謙三講師（映画ビジネス）

美術ブロック



●第16回岡本太郎現代芸術賞展

2/9～4/9

川崎氏岡本太郎美術館にて彫刻コース助手 内山翔二郎助手が作品タイトル《Never die》で特別賞を受賞

●平成24年度東京都五美術大学連合卒業・終了制作展

2/21～3/3 国立新美術館にて開催

●笹井裕子 個展（笹井裕子准教授）

2/27～3/9

ギャラリーf分の1

●アートラボあいち『落石計画』
クロニクル 2008-2015
3/10～3/31
アートラボあいちにて遠藤美香
(H18卒) 木村瞳 (H20卒) 日比野
絵美 (H20卒) が出品

○VOLANT III

6/3～6/13
ギャラリー清光堂
設楽俊 (絵画専攻助手) 渡邊大介
(H11卒) 張麗寧 (H20修了) 大山
智子 (H22修了)

○6月7日 (金)～8月4日 (日)
星と森の詩美術館

<鉄・彫・写>展 鞍掛純一+田
中里実

○瀬戸内国際芸術祭—夏—
7月20日 (土)～9月1日 (日)
バングラデシュプロジェクト参加
鞍掛純一+日本大学芸術学部彫刻
コース有志

音楽ブロック



●平成24年度 卒業論文要旨発表会
平成25年3月21日 (木) 江古田
校舎・音楽小ホールに於いて、卒
業論文が優秀であった学生による
卒業論文要旨発表会が開催されま
した。発表者は次の通りでした。

<音楽教育コース>

木下晶、村越優香

<情報音楽コース>

田中敦士、塩野洗一朗、安居顯太郎、
若林夏美、高野峻典

●平成24年度 卒業演奏会

平成25年3月21日 (木) 練馬文
化センター小ホールに於いて、卒
業演奏及び卒業作品で優秀であっ
た学生の出演する卒業演奏会が開
催されました。出演者は次の通り
でした。

<声楽コース>

小山百合恵 (ソプラノ)、大津康平
(バリトン)、根本紘子 (ソプラノ)、
田村奈々恵 (ソプラノ)

<ピアノコース>

日高麻子、谷亜矢子、山田あずさ、
福與碧子、糸井川夏穂

<弦管打楽コース>

深澤美香 (フルート)、佐々木聖子

(クラリネット)、石井恵美 (トラ
ンペット)、田上みずほ (トランペッ
ト)、中島若菜 (打楽器)

●銀座山野楽器主催 銀座 音大
フェスティバル 2013

平成25年3月3日 (日) 10:30
～19:00 山野楽器本店
ピアノコンサート出演 山田あず
さ、日高麻子

●第83回 読売新聞主催新人演奏
会 東京文化会館・大ホール

平成25年5月5日・6日
トランペット独奏 田上みずほ
ピアノ伴奏 糸井川夏穂
ピアノ独奏 日高麻子
バリトン独唱 津康平
ピアノ伴奏 谷亜矢子

●日本ピアノ調律師協会主催 第
14回新人演奏会 東京文化
会館・小ホール

平成25年4月21日 (日) 17:00開演
ピアノ独奏 日高麻子

●ヤマハホール・コンサートシリーズ
「音楽大学フェスティバル・コン
サートシリーズ vol.4」

平成25年6月22日 (土) 14:00
開演

ピアノ独奏 純田未樹
クラリネット独奏 明妻若菜
ピアノ伴奏 平田亜樹

●ヤマハ管楽器 新人演奏会

平成25年5月23日 (木) 第31回
クラリネット部門 ヤマハホール
クラリネット独奏 袖山和
平成25年5月24日 (金) 第17回
木管楽器部門 ヤマハホール
フルート独奏 鈴木あや
平成25年5月25日 (土) 第29回
金管楽器部門ヤマハホール
トランペット独奏 石井恵美

●日本フルート協会・フルートデ
ビューリサイタル

平成25年7月3日 (水) 東京オ
ペラシティ・リサイタルホール
フルート独奏 深澤美香 (小リサ
イタルの形で演奏します。)

●平成25年度 音楽学科夏期受験
準備講習会

平成25年7月26日 (金)～29日
(月)に開催いたします。校友会員
の皆様のお知り合いを、ぜひご紹
介ください。

●平成24年度で退職なさった先生
は次の通りです。長い間、ありが
とうございました。
宮川輝雄先生、百瀬喬先生、鈴木
涼子先生、中川滋木先生

●今年度より次の先生が新たに講
座を担当しております。
山口慶子先生 (音楽療法特殊研究

I)、加藤美知子先生(音楽療法実習 I)、日比野幸先生(声楽)、渡

辺ローザ先生(声楽)、原田圭先生(声楽)、萩原晴子先生(和声 I)、

稲川榮一先生(チューバ)

文芸ブロック



■第 11 回江古田文学賞に大西由益さん

第 11 回江古田文学賞は、2012 年 8 月 31 日の締切までに 60 篇の応募作があり、その中から文芸学科 3 年・大西由益さんの「ポテト」が賞に輝きました。受賞作は「江古田文学 81 号」に全文掲載されています。

■第 24 回舟橋聖一顕彰青年文学賞最優秀賞に額賀滯さん

文芸学科 4 年・額賀滯さんが、小説「俺とマッ缶の行方」で、彦根市主催の第 24 回舟橋聖一顕彰青年文学賞の最優秀賞を受賞しました。

■第二次映画事変 3 分映画宴の特別賞に樋口仁美さん

文芸学科 3 年・樋口仁美さんの監督・脚本作品「開花の舞」が、第二次米子映画事変「第二次映画事変 3 分映画宴」の特別賞を受賞しました。

■ 4gamer.net 賞に山内貴寿さん

文芸学科 4 年・山内貴寿さんが「divid」で HTML5 ゲームコンテスト for スマートフォン「4gamer.net」賞を受賞しました。受賞作「divid」は HTML5 ゲームコンテスト for スマートフォンからダウンロードできます。

■文芸思潮 48 号「現代詩賞」優秀賞に山下洪文さん

文芸学科 4 年・山下洪文さんが「不帰郷」で文芸思潮第 48 号「現代詩賞」優秀賞を受賞しました。受賞作「不帰郷」は文芸思潮第 48 号に掲載されています。

演劇ブロック



◇戸田宗宏先生が定年退職を迎えられました。

長年演劇学科専任教授を勤められ、また学科主任教授他、大学での重席を歴任され、学科のためにご尽力いただきました。戸田宗宏先生が、昨年 9 月をもって定年退職を迎えられました。

今年度からも昨年秋から引き続き、非常勤講師として、企画制作関係及び大学院の講座をご担当いただき、ご指導にあたっていただきます。これからもよろしく願いいたします。

◇平成 24 年度「川野希典賞」受賞者決定！

演劇学科の実習発表及び卒業制作公演における年間最優秀作品及び人物に授与される「川野希典賞」に、平成 24 年度卒業制作(日舞)上演作品『光・影』が選ばれ、同卒業制作登記者、次の 5 名に、平成 24 年度演劇学科学位授与式において賞が授与されました。みなさんおめでとございます。

○受賞者

- ・福井美砂貴(創舞・出演)
- ・山口こゆき(創舞・出演)
- ・小林沙羅(美術)
- ・青山桃子(照明)
- ・榎本光希(照明)

◇前期実習発表スケジュール

平成 25 年度より、所沢校舎(2 年生発表)実習授業の内容変更及び名称等変更に伴い、発表時期が、大幅に変更されました。つきましては、所沢校舎開催実習発表に關しましては、全て後期発表となります。何卒ご了承ください。

また、本年度も所沢校舎・江古田校舎におきまして、さまざまな実習発表及び卒業制作公演を実施いたします。校友の皆様方のご来場をお待ちしております。尚、発表に關しましては、全公演インターネットからの事前予約が必要です。詳しい予約スケジュール及び予約方法に關しましては、演劇学科ホームページ <http://theatre.art.nihon-u.ac.jp/> でご確認ください。

【前期発表スケジュール】

※タイトル及び詳しい内容は演劇学科ホームページでご確認ください。

○舞台総合実習ⅢA（演劇）

- ・6月14日（金）～16日（日）
- ・演出：山田和也
- ・江古田校舎・中ホール

○舞台総合実習ⅢC（日舞）

- ・7月6日（土）
- ・創舞指導：花柳基
- ・江古田校舎・中ホール

○卒業制作中間発表（日舞）

- ・7月20日（土）
- ・江古田校舎・中ホール

○舞台総合実習ⅤD（洋舞）

- ・8月2日（金）～3日（土）
- ・創舞指導：范旅
- ・江古田校舎・小ホール

放送ブロック



■第31回向田邦子賞を受賞

脚本家として活躍され、放送学科の客員教授を務められている中園ミホさんが（昭和56年度卒）、第31回向田邦子賞を受賞されました。この賞は、現在のテレビ界を支える優秀な脚本作家に贈られるもので、昨年放送されたテレビドラマ「はつ恋」（NHK総合）と「ドクターX～外科医・大門未知子～」（テレビ朝日系）が受賞作として選ばれました。贈賞式は2013年5月28日（火）に帝国ホテルで行われました。

■芸術祭ラジオ部門で大賞を受賞

名古屋の東海ラジオが制作したラジオドキュメンタリー「よみがえる話芸 節談説教」が第67回芸術祭ラジオ部門で大賞を受賞しました。本作のナビゲートとナレーションを卒業生で講師として活躍されている神田京子さん（平成11年度卒・本名：本田尚子）が担当されました。

落語、講談など話芸の源流といわれ、仏教信仰の啓蒙のために行われる「節談説教」の魅力を神田さんが実に面白く伝えてくれる作品です。

■一龍齋貞橋さんが真打に昇進

講師の一龍齋貞橋さん（平成12年度卒・本名：島根成利）が、この春、真打に昇進されました。

貞橋さんは、在学中の平成12年に人間国宝一龍齋貞水門下に入門し、平成17年10月に二ツ目に昇進。都内の演芸場を中心に活躍され、毎月貞橋勉強会を開催するなど精力的に活動されています。

4月には浅草・木馬亭から湯島天満宮まで都内各所で真打昇進披露興行が行われました。今後の公演などについては、講談協会のHP

(kodankyokai.com)をご覧ください。

■「ギャラクシー賞受賞『報道活動』を見て、制作者と語る会」の報告

昨年11月10日に江古田校舎で第5回「ギャラクシー賞受賞『報道活動』を見て、制作者と語る会」（主催／NPO放送批評懇談会ギャラクシー賞報道活動部門委員会 後援／日本大学芸術学部放送学科）が開催されました。第49回ギャラクシー賞の報道活動部門で大賞、優秀賞を受賞した制作者を迎え、受賞作の視聴後、制作者から話をうかがいました。4部構成で行われた本会は、災害と報道、地域の環境汚染、復興への道のりをどう報道するかをテーマにして、第4部では登壇者全員で報道活動について討論をしました。ジャーナ

リズムに関心を持つ研究者、視聴者だけでなく学生の参加もあり、活発な議論が行われました。

■イメージキャラクターのネーミングで最優秀賞受賞

LPガスを配給するカンプロ株式会社（茨城県水戸市）のイメージキャラクターの名前を募集するコンテストで、全国から寄せられた551点の応募の中から、中村尚之介さん（3年）の作品「くるる」が最優秀賞を受賞し、キャラクターの名付け親になりました。

2月7日にカンプロ本社で表彰式が行われ、その模様は地元のコミュニティFM「FMぱるるん」で生放送されました。

■第25回「ACC学生CMコンクール」の受賞報告

CMの質的向上と人材の育成を目的に、全国の学生を対象として実施されている本コンクールのラジオCM部門で中村恵さん（3年）がキャノンマーケティングジャパン（株）の製品「コンパクトデジタルカメラ PowerShot G1X」の20秒CM「手が届かないものを手元に。」で奨励賞を受賞しました。

本作は、（社）全日本シーエム放送連盟のHPで公開されています。(acc-cm.or.jp)

■スタジオカメラ、FPU 装置などを更新

江古田校舎のテレビスタジオで、スタジオカメラ3台とVE卓などが更新されました。旧校舎から移設した従来のスタジオカメラは、ビューファインダーがモノクロでしたが、今回の更新によってカラー化したほか、機能・性能面でも著しく向上しています。既に映像技術、テレビ制作、照明演習などの授業で使用されています。

また、マイクロ波の電波を使ってテレビ映像を伝送するFPU装置も更新されました。従来の装置はアナログテレビ用でしたが、今回の更新でデジタル化し、ハイビジョンの伝送が可能となりました。テレビ中継車と併せて、今年度は映像技術の授業で活用されます。

■放送学科新任者のお知らせ

今年度より放送学科の専任教員として森中慎也先生をお迎えしま

した。森中先生は、放送学科を昭和59年度に卒業後、STV札幌テレビ放送にアナウンサーとして入社され、28年間にわたりご活躍されました。「アナウンス実習」を中心に授業を担当します。

そして、助手として務めてきた糺美由紀さん(平成20年度卒)が、今年度より放送学科技術センターの技術員に就任しました。

デザインブロック



■中島安貴輝教授の退任記念最終講義が行われました

長年デザイン学科で教鞭をとられてきた中島安貴輝先生が定年を迎え、学部の教授を退任されました。これを記念して平成25年1月26日に江古田校舎にて最終講義が行われ、多くの学生や関係者が聴講しました。講義ではご専門のタイポグラフィをはじめ、デザイナーとして、教育者としてのご自身のライフワークを振り返り、「デザイン」についての持論を語っていただきました。これからは学部の講師ならびに大学院教授として、引き続き学生の指導にあたっていただくことになっています。



■第2回日藝デザイン卒業生・学生交流会が開催されました

毎年恒例のデザイン学科卒業制作選抜展(平成25年2月16日-3月3日)の開催に合わせ、オープニングイベントとしてデザイン学科(旧美術学科デザインコースを含む)の卒業生と学生が集う標記の交流会が今年も江古田校舎の学食で開催されました。デザインを本格的に学び始めた1年生から、卒業したばかりの若いOB・OGをはじめ、デザインの最前線でご活躍されている卒業生までの約130名が一堂に会し、仕事や就職、現役当時のことなどを話題に交流しました。また、日藝デザインの大先輩で、以前インダストリアルデザインコースの講師も務められていた奈良謙氏もご来場され、懐かしい顔ぶれとの再会を楽しんでいらっしゃいました。来年もまたこの交流会でお会いしましょう。



■下條美智子氏の個展

「MICHIKO SHIMOJO Solo Exhibition2013」開催のご案内

下條美智子(旧姓 大橋)氏は日本大学芸術学部美術学科インテリアデザインを卒業した後、1996年からシカゴに4年間滞在し、The school of the Art Institute of Chicago(シカゴ美術大学)とWilliam Rainey Harper College(ハーパーカレッジ)に学ばれ、帰国後は地元の千葉県で作品を制作されています。

同氏はシカゴ芸術連盟の会員であり、平成20年から22年まで、City of New York, department of Parks & Recreation(ニューヨーク市公園娯楽局)による公募展『The wreath interpretations exhibition』に3年連続で入選されるなど、数々の絵画コンクールで受賞・入選の実績をお持ちです。今回の個展では、未曾有の東日本大震災後に制作された作品も展覧されます。自然の巨大なエネルギーによってあらゆる物を破壊し、一瞬のうちに全てを呑み込んでしまう。その体験を自身の思考と感性で裏打ち直し、生と死を描いています。計算された独創的な構図に、

生と死、及び潔癖さと現実主義を持たせシュールリアリズムの作品に仕上げられていますのでご期待ください。

会 期：平成 25 年 5 月 14 日 - 5 月 19 日
時 間：10:00 - 18:00
(※ 初日は 13:30 から / 最終日は 14:30 まで)
会 場：佐倉市立美術館 (千葉県佐倉市新町 210)
入場料：無料



「MICHIKO SHIMOJO
Solo Exhibition 2013」

皆さん、今日は!!

会長の綾部です。卒業生の皆さん
校友会の健全な運営のために
終身会費 (5,000 円) を未納な方は
下記銀行へお振り込みを
お願い致します。



振り込み先銀行
三菱東京 UFJ 銀行 江古田支店 (普通) 1202129
日本大学芸術学部校友会
(卒業学科名 氏名のご記入をお願いします。)

お詫びと訂正

会報89号(2012秋号)において
名前の漢字に間違いがあり、以下
の通り訂正してお詫び致します。

P.7 小泉定之氏→小泉定弘氏
[之]→[弘]

総会のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。ビジュアル
から立体に至る、デザイン全般を受け持つ。

(株)スピーチ・バルーン▶1985年、スタジオ・
マイの出版部門として発足。絵本、コミック、アニ
メほか、企画本の制作、出版プロデュースを主
とし、各種イベントの企画・構成・プロデュース
なども行っている。

(株)スタジオ・マイ ☎03-5999-8611

(株)スピーチ・バルーン ☎03-5999-6911

design : スタジオ・マイ

編 集 後 記

東日本大震災からまる2年が過ぎた今年ですが、繰り返しテレビやネットに現れる「記録」が、薄れかける記憶を呼び覚ましてくれます。江古田もすっかり新しいキャンパスの姿が街になじみ、かつての姿は薄れつつありますが、きっと皆様のお手元にある写真などが、あの頃の記憶を今も鮮やかに更新し続けているのではないかと思います。

(青木)

8つのアート1つのハート



日本大学芸術学部校友会会報・第90号

2013年春号 ●平成25年5月発行●

●編集人 会報編集委員会

●発行人 綾部東洋子

●広報担当 鈴木孝史 今泉久 青木敬士
小林直弥 金龍郎 木村政司

●発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術部内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 北嶋 留美子

●印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-40-10
三翔ビル本郷
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

●表紙

平成24年度写真学科卒業制作
吉崎 千佐子
『角を曲がったら』

8つのアート1つのハート

日本大学藝術学部

Photography/Cinema/FineArts/Music/LiteraryArts/Theatre/Broadcasting/Design

◆ 大学院 芸術学 研究科 ◆

◇博士前期課程／文芸学専攻／映像芸術専攻／造形芸術専攻／音楽芸術専攻／舞台芸術専攻

◇博士後期課程／芸術専攻



写真



映画



美術



音楽



文芸



演劇



放送



デザイン






江古田校舎

進学フェア

6.2 予約不要・入退場自由
[日] 10:00~16:00

学部全体説明会(入試説明含む)/学科説明会/学科公開授業 他




熱気・やる気・元気

江古田校舎

海の日にはオープンキャンパスへ行こう!

OPENCAMPUS

7.15 予約不要・入退場自由
[月/祝] 10:00~16:00

学部全体説明会(入試説明含む)/模擬授業/
ワークショップ/個別進学相談コーナー 他






江古田校舎

入試相談会

11.3 [日].4 [月/祝]
10:00~16:00 予約不要・入退場自由

個別進学相談コーナー/VTR上映コーナー 他

美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします
11月2~4日に芸術学部祭を実施していますので、学生主催のイベントやキャンパスの雰囲気もご覧いただけます

N  U

Nihon University College of Art

Art

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

■ 江古田校舎 練馬区旭丘 2-42-1 TEL.03-5995-8282 ■ 所沢校舎 所沢市中富南 4-21 TEL.04-2993-2212